



左から鹿糠鉄斗くん、佐藤暖心さん、伊藤義隆くん

道場生3人が優勝
全国入賞目指し
集中で臨む

7月7日に県営武道館で行われた県小学生学年別柔道大会で、三船十段記念館道場生の鹿糠鉄斗くん（小久慈小・5年）、佐藤暖心さん（長内小・5年）、伊藤義隆くん（小久慈小・6年）が優勝。8月25日に広島県で開催される第10回全国小学生学年別柔道大会に出場します。伊藤くんは「全国大会には各県の強い選手が出場するので、一試合一試合集中して臨みます。3人とも入賞できる大会になるよう頑張ります」と意気込みを語りました。



くす玉を割り、笑顔を見せる中田龍聖くん（中央）

入館者10万人達成
みんなに愛される
水族館目指す

平成23年8月5日の開館以来、多くの皆さんから支援を受けながら中心商店街を盛り上げてきた、もぐらんぴあ・まちなか水族館（宇部修代表）は7月7日、入館者10万人を達成しました。記念すべき10万人目は家族4人で訪れた中田龍聖くん（天神堂・5歳）。宇部代表は「これからも多くの人に愛される水族館を目指します」と意気込みました。

寺内孫四郎さんが長寿祝い
感謝し、長寿願う



家族と記念撮影をする孫四郎さん（前列左）

7月1日、寺内孫四郎さんが100歳を迎え、入所する特別養護老人ホーム和光苑で長寿祝いが行われました。家族や同施設の入所者、職員が見守る中、山内隆文市長が祝い状を読み上げ、祝い金とともに孫四郎さんに贈呈。また、家族と同施設からお祝いの花束がそれぞれ贈られました。

山内市長は「おめでとうございませう。一世紀にわたり家族のため、地域のために頑張ってきた孫四郎さんに心から感謝します」とお祝いの言葉をかけました。昔から温厚な人柄がみんなから好かれる孫四郎さん。若いころはいろいろな仕事を経験し、一時期は、げた作りの職人をしていました。家族全員分のげたを作ってくれたこともあり、家族思いの父親だったそうです。長女の菊地和子さんは「色々な苦労があったようですが、5人の娘を優しく、時には厳しく育ててくれた父に心から感謝しています。これからも元気に長生きしてほしいです」と話し、一層の長寿を願いました。

舟渡海水浴場・舟渡レストハウスがオープン
安全・安心・快適な海水浴場



夢中になって遊ぶ子どもたち

東日本大震災の津波被害で損壊した舟渡レストハウスが復旧。7月14日、舟渡海水浴場の海開きに合わせてオープンイベントが行われました。山内隆文市長は「舟渡レストハウスは観光施設の復興第一号。観光振興に大きな弾みとなることを期待します」とあいさつ。続いて関係者がテープカットを行い、再開を祝いました。同ハウスはシャワー室やトイレを完備した快適な休憩所としてのほか、各種の体験活動にも活用が可能。年間を通して利用することができます。隣接する舟渡海水浴場は約2千人の親子連れなどで大にぎわい。海開きイベントの景



トイレやシャワー室を完備する舟渡レストハウス

品付きもちまち大会では、頭上にまかれたもちに手を伸ばしたり、袋の代わりに帽子を広げたりする参加者の姿が見られました。海水浴場のオープンを待ち焦がれた子どもたちは、浮き輪などを手に大はしゃぎ。水しぶきを上げながら夢中になつて遊んでいました。水質検査の結果、最高ランクの「AA」で放射線も不検出。安心・安全に夏の海を思い切り楽しむことができます。友達8人と遊んでいた小屋畑公太くん（長内小4年）は「まだ海水は冷たいけど、開放感がたまらない。魚やカニもたくさんいて楽しい！」と喜びを爆発させていました。

あまちゃんの時報メロディーがスタート
音楽で元気届けたい



繊細な音色を響かせ、練習に励む久慈高マンドリン部の皆さん

7月1日から、市防災行政無線の時報メロディーが、連続テレビ小説「あまちゃん」の楽曲になりました。午前7時と正午のメロディーは「あまちゃんのオープニングテーマ」。朝は1日のスタートを元気に迎えられるよう軽快に、昼はゆつくりとしたテンポに編曲されています。また、午後6時には落

ち着いた雰囲気「潮騒のメモリー」が、市民に時刻を知らせてくれます。演奏を担当した久慈高校（千葉司校長）マンドリン部は、県高校総合文化祭で5年連続最優秀賞を獲得。7月31日から長崎県で行われている全国高校総合文化祭にも出場しています。部員たちは2週間ほど練習を重ね、6月23日に行われた収録では、自分たちらしい音色にしようと、心を一つに演奏しました。部長の小松亜沙月さん（3年）は「みんなに元気を届けたいと思いながら演奏しました。また放送を聞いて、マンドリンに興味を持つ人が増えればうれしいです」と演奏へ込めた思いを話しました。

久慈まめぶ汁のレトルト商品発表会
お土産にできるまめぶ汁が登場!



家庭で手軽に味わえます

6月24日、小袖屋（野田一夫代表取締役社長）が中央公民館で久慈まめぶ汁のレトルト商品発表会を開催。観光関係者など約30人が試食しました。やませ土風館の中塚勝則館長は「想像以上においしい。お店で食べるのと変わらない味です」と完成度の高さに太鼓判を押しました。B-1グランプリや連続テレビ小説あまちゃんでも注目されているまめぶ汁。同社では観光客がお土産として手軽に持ち帰れるようにと3月から開発を進めてきました。久慈まめぶ汁屋（小笠原巨樹部屋頭）の全面協力を後押しに商品化を進め、東日本大震災から復旧した同社の工場生産

パッケージには、まめぶ汁の写真と久慈まめぶ汁ののぼり、B-1グランプリのロゴが印刷された公認商品をPRします。商品は野菜や焼き豆腐などが入る1食分。レトルト包装された汁と真空包装のまめぶに分かれ、温めて簡単に食べることができます。開発チームの中川祥子さん（宇部町）は当時を振り返って「寝ても覚めてもまめぶのことを考える日々でしたが、商品になり苦労が報われました」と発表を喜びました。商品は、市内や県内の小売店を中心に7月1日から販売。価格は1食525円（税込）です。



完成した商品を手をPRする野田一夫社長（中央）と開発チームのメンバー